

第4回 国際リゾート都市づくり検討会 議事概要

日時：平成31年2月22日（金）15時30分～17時30分

場所：俱知安町役場 3階 会議室

出席委員：小磯修二委員（代表）、吉田聡委員（副代表）阪井啓司委員、渡辺淳子委員、田中義人委員、本間浩規委員、青木夏暁委員、東内学爾委員、荒川祥子委員、西田信委員

出席オブザーバー：小樽開発建設部道路計画課 仲田道路調査官（代理：大部上席道路計画専門官）、北洋銀行俱知安支店 田矢渉外課長、ニセコひらふエリアマネジメント 大加田事務局担当、（一社）地域研究工房 関口様

事務局（俱知安町）：文字町長、柳澤総合政策課長、土井総合政策課参事、上木企画振興室長、植田総合政策係長、山崎企画統計係長、糸川 G20 企画担当係長、福家観光課長、沼田観光係長、奥山主事、福坂まちづくり新幹線課長、嶋田まちづくり新幹線課参事、大井新幹線係長、星加まちづくり係長、中村建設課長、高橋管理係長

1 開会

2 町長挨拶

・皆様におかれましては、ご多忙のところ国際リゾート都市づくり検討会にお集まりいただき心から御礼を申し上げます。

・短い間暮らした方でも、「ここがふるさとだよね」と思える町にしていきたいという思いである。

・第4回目の国際リゾート都市づくり検討会では、都市再生整備計画による各事業の事後評価、それと、現在進めている、町の各施策の御報告を予定している。

・今年は G20 観光大臣会合という大きな行事が控えており、関係各所皆様がたの御協力をいただきながら、必ずや成功していきたい。

3 委嘱

・町長より出席各委員に委嘱状を交付

4 代表・副代表選出

代表：小磯委員 副代表：吉田委員が選出

5 代表、副代表挨拶

○小磯代表

- ・再度進行をさせていただく。
- ・当会の前身が発足した５年半前は倶知安町は大変な状況であり、当時は、この会議のように情報共有しながら町全体の目指す方向を議論していく、そういう場が重要との認識だったが、必ずしも当時の趣旨通りに進められて来たわけではない。
- ・今回の都市再生整備計画の事後評価で一つの区切りとなる一方で、改めて、全体的に議論する場として本検討会の意義が増しているように思っている。

○吉田副代表

- ・投資や開発があまりにも過熱して、これに対して本検討会もそろそろ成果を出さなければという思いである。
- ・「誇れる故郷」ということを考えると、行政と民間手をたずさえて、バランスのいい発展と持続可能な経済成長を考えて、次の世代に残すものを考えなければならない。

6 議題

(1) 都市再生整備計画事後評価

事務局説明：

観光係長 都市再生整備計画事後評価について、方法書及び公開原案より、評価委員会の審議事項に沿って内容説明。

質疑・意見：

小磯代表 本会議でのご意見を踏まえて、(6) 評価委員会の審議に反映していく形かと。都市再整備計画については途中での変更もあったところ、そういった点も含めて総体でのご質問・ご意見などあるだろうか。

委員 原案の公表期間中に町民から出たご質問はどのようなものだったか。

事務局 記載内容に複雑な部分があり、内容が分かりにくいので説明を求められている。特に、取りやめとなった中核施設について、どの施設が取りやめになったのか、入札不調によるものだったと思うが、その理由は何だったのかといったご質問である。

小磯代表 もし、他にご意見・ご質問がないようでしたら、特段の意見なしということで、それで整理するという方向に進めますけどよろしいか。

小磯代表 はい。どうもありがとうございます。この都市再生整備計画について、本日の検

討会というのは第三者的立場で審議をするという役割からすると、実際はやはり事務局である役場の方で、実務的にしっかり進めていただくべきと思う。本件で、個別の御相談があれば私の方で皆さんを代表して対応していきたい。今、この地域では色々な動きがある。それをせっかくの機会なので、ここからご報告いただき、理解を深めながら全体の中で議論したい。

（２）ひらふ第１駐車場

事務局説明：

総合政策課長 ひらふ第１駐車場の再整備について進捗状況と３つの案を資料により説明

質問：

- ・ 駐車場を整備する場合の冬季施工の有無について
- ・ サン・スポーツランド近隣の開発事業者との事前調整について

説明：

- ・ 冬季の施工は予定されていない
- ・ 開発行為における関係機関協議は行われているが、駐車場との協議はされていない。
- ・ 開発事業者等と意見交換をしており、将来状況を考慮しつつ現況の交通量調査も踏まえ分析を行っていく。

委員意見総括：

- ・ 交通ターミナル機能の分散については、この地域における全体の交通計画だけではなく、観光視点のまちづくりプラン全体の中での位置づけといったトータルなプランの中で行うべき。個別事案への後追的な政策は生産的ではないため、無駄が出ないようなやり方かどうかを議論すべき場も重要である。

（３）新幹線

事務局説明：

まちづくり新幹線課参事 新幹線まちづくりの整備方針について資料により説明

委員意見総括：

- ・ 既に整備新幹線駅では期待通りにいかない駅も多い。俱知安駅で新幹線を下りられた方、その方たちをどう２次交通でしっかり受けとめるかがポイントである。
- ・ 在来線については残すかどうかの議論をしても結論が出ないが、在来線廃止の有無が決定してこないことは、全体的な計画づくりに支障をきたしている
- ・ 新幹線でなかなか上手く施策展開しているのは八戸であり、街が商工会議所や観光協会も

含めて一丸となり、きれいに2次交通を体系化している。

・ニセコエリアの倶知安には、ニセコひらふというものすごい集積力があり、これは他の地域には真似できないもの。整備新幹線の駅ができる町で1番可能性のある議論ができるのは倶知安だと思われる。

(4) 地域DMO・観光振興計画

事務局説明：

観光係長 倶知安観光協会の地域DMO化と観光振興計画の更新及びDMOと町が協働で作っていく観光地マスタープランについて資料により説明

委員意見総括：

- ・DMOを整備しないと、国の予算が下りてこないという世の中の動きにはしっかり向き合って戦略的に準備をしていくのは大事なこと。
- ・DMOが日本という国の観光政策の中で、注目されて進められている大きな背景は、結局こここれまでの観光施策が、行政、観光協会あとは商工会議所などで個々ばらばらで取り組まれており、そこを一体的に地域全体で進めていく必要があるため。
- ・日本全体としてはそうだが、倶知安の場合は、もっと大切なのは空間の整備計画になる。
- ・空間的なマスタープランであるとか観光振興計画の議論は、今の観光庁の政策の中ではなかなか出てこないものであるため、独自に進めていかなければいけない。
- ・都市計画的な視点でリゾート地を考えていくということが重要である。

(5) その他

事務局説明：

総合政策課参事 G20 観光大臣会合の進捗現状について説明

委員意見総括

- ・G20という大きなイベントを今後はどう活かしていくかを見据える。

7 全体審議

○今後の国際リゾート都市づくり検討会について

委員より：

- ・都市再生整備計画については、当初は10年間だったところが、前期5年で終わる。今後、本検討会で話されたことをどうやって実現化していくのか、行政としての考えをお示しいただきたい。
- ・行政の各部門の連携が取れていないことが、北海道庁の中だけでなく、道と町の関係でもあると思う。

・調和のとれた開発をどう進めていくかというキャパシティコントロールについて、難しい課題ですがなんとかしないと、エリアが空中分解しかねないと思う。

町より：

・ひらふエリアは、投資が活発になり想像を超えるような開発が進み、準都市計画指定や景観地区決定がなされてきた。行政として、開発を誘導しながらも景観と調和を取るように持っていきたいところだが、この３年くらいの動向をみると、緩やかなレベルではなく想像を絶するような開発状況となっている。

・これから、開発を妨げるという意味ではなく、いかに安全で質の高いリゾートにしたらいいかということ、法的な制約はあるが前向きに考えるべき。リゾートへの都市計画的手法の反映というのも、横連携で行うポジションが必要。

・北海道との関係についても調整が必要であり、連携した体制を構築する。

・都市再生整備計画は、今回の検討委員会で事後評価ということで一区切りになる。後期の５年間の計画は、都市再生整備計画の中には入っていない。

委員より：

・今後に向けて本検討会をどう活用していくのか。

町より：

・今日は報告がメインとなっており、各事案で町民を巻き込んだ委員会や会議体が行われている。そういった個別の事案とは別口で横からや俯瞰した視点から活発なご意見をいただくというのは大切なこと。

委員より：

・今後、情報共有しながらまちづくりをしていくという方向性はぜひ続けていただきながら、具現化するように頑張っていただきたい。

・検討会の進め方も、議論が活発になるように工夫をしてほしい。